

伊丹福音ルーテル教会 待降節第三主日礼拝のしおり

2021年12月12日

主を待ち望むアドベント(点火)

1. 主を待ち望むアドベント、最初の蠟燭ともそう 主が道を備えられた このときを守ろう
※主の民よ、喜べ、主は近い

2. 主を待ち望むアドベント、第二の蠟燭ともそう 主がなされたその様に 互いに助けよう ※

3. 主を待ち望むアドベント、第三の蠟燭ともそう 主の恵み 照り輝き 暗闇を照らす ※

招きのことば：詩編 19 編 13-15 節

主よ、知らずに犯した過ち、隠れた罪から どうかわたしを清めてください。
あなたの僕を驕(おご)りから引き離し 支配されないようにしてください。
そうすれば、重い背きの罪から清められ わたしは完全になるでしょう。
どうか、わたしの口の言葉が御旨にかなない 心の思いが御前に置かれますように。
主よ、わたしの岩、わたしの贖い主よ。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 **アーメン**。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。クリスマスを待ち望んでいます。固く、冷たく、自己中心な私たちのために、あなたはイエス様をお与えくださいました。今朝も私たちが悔い改めて目をイエス様に向け、イエス様を仰ぎ見て信頼し、悔い改めの実を結ぶ者としてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、なお緊張感を保っていかなければなりません。その中でも 御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして 安心して 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：ピリピ人への手紙 4章 4-7節

主において常に喜びなさい。重ねて言います。喜びなさい。あなたがたの広い心がすべての人に知られるようになさい。主はすぐ近くにおられます。どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。

福音書朗読：ルカによる福音書 3章 7-18節

そこでヨハネは、洗礼を授けてもらおうとして出て来た群衆に言った。「蝮(まむし)の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。悔い改めにふさわしい実を結べ。『我々の父はアブラハムだ』などという考えを起すな。言うておくが、神はこんな石ころからでも、アブラハムの子たちを造り出すことがおできになる。斧は既に木の根元に置かれている。良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。」そこで群衆は、「では、わたしたちはどうすればよいのですか」と尋ねた。ヨハネは、「下着を二枚持っている者は、一枚も持たない者に分けてやれ。食べ物を持っている者も同じようにせよ」と答えた。徴税人も洗礼を受けるために来て、「先生、わたしたちはどうすればよいのですか」と言った。ヨハネは、「規定以上のものは取り立てるな」と言った。兵士も、「このわたしたちはどうすればよいのですか」と尋ねた。ヨハネは、「だれからも金をゆすり取ったり、だまし取ったりするな。自分の給料で満足せよ」と言った。民衆はメシアを待ち望んでいて、ヨハネについて、もしかしたら彼がメシアではないかと、皆心の中で考えていた。そこで、ヨハネは皆に向かって言った。「わたしはあなたたちに水で洗礼を授けるが、わたしよりも優れた方が来られる。わたしは、その方の履物

のひもを解く値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。そして、手に箕を持って、脱穀場を隅々まできれいにし、麦を集めて倉に入れ、殻を消えることのない火で焼き払われる。」ヨハネは、ほかにもさまざまな勧めをして、民衆に福音を告げ知らせた。

讚美歌 111 番

1. 神の御子は今宵しも ベツレヘムに生まれたもう いざや 友よ、もろともに
※ いそぎゆきて 拝まずや いそぎゆきて 拝まずや
2. おとめマリヤ 母として 生まれましし みどりごは まことの神、きみの君 ※
3. 「神に栄え あれかし」と み使いらの 声すなり 地なる人も たたえつつ ※
4. とこしなえの みことばは 今ぞ人と なりたもう 待ち望みし 主の民よ
おのが幸(さち)を 祝わずや おのが幸を 祝わずや アーメン

説教：「悔い改めにふさわしい実」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

今朝はイエス様がお生まれになったクリスマスを待ち望む三回目の日曜日、待降節第三主日です。このようにイエス様が来てくださることを私たちはよく準備をしてお迎えします。今朝読まれたルカによる福音書3章7節からには、先週に続いて、イエス様が来られることを人々が待ち望むことができるように道備えをしたバプテスマのヨハネのメッセージが記されていました。ヨハネは群衆にむかって「悔い改めにふさわしい実を結びなさい！」と厳しく迫っています。人々にこれまでの自分中心の生活をあらためて、困っている人にやさしくするようにと勧めています。悔い改めにふさわしい実、とはいったい何のことでしょうか。

先週はルカによる福音書3章の初めの部分から、私たちは罪を赦してくださるイエス様を待っている、と口では言っているけれど、果たして本当にイエス様を心から待っているのか、と問われましたね。神様は旧約聖書で約束してくださった通りに荒れ野で叫ぶ者、バプテスマのヨハネを送ってくださいました。私たちが悔い改めて、イエス様が来られるのを心から待つことができるように心を整えるためです。

神様は悔い改めてイエス様を待つことができるように、ヨハネをあなたのためにも送ってくださいました。自信を失って落ち込んでいる人には希望があります。あなたのために命を与えるほどあなたのことを大切に思ってくださいるイエス様がおられます。傲慢になって人を見下している人には謙遜なイエス様がおられます。あなたのその罪を赦すために叱るのではなくあなたの代りに罪を担って死んでくださった柔かなイエス様です。心がひねくれて自分なんて神様に愛されるはずがない、とひがんでいる人は、まっすぐにしてくださいます。まっすぐに神様の

前に立つことができるように、イエス様はあなたの前に来てくださいます。口ではイエス様を待っているといいつながら隠れて悪事を働くような浮き沈みや不徹底に困っているひとには、その足場を整えてくださいます。あなたはどんなときも平らで変わらない心でイエス様を仰ぎ見ることができます。

そのようにして神様は、あなたがイエス様の罪の赦しを得ることができるようにと、悔い改めの心を整えてくださいます。悔い改めとは神様から離れている自分の罪を反省して、これから同じ過ちを犯さないように強く決意をすること、と考えられがちですが、そうではありません。それではまだあなたの目は自分に向けられたままです。バプテスマのヨハネが授けた悔い改めの洗礼は、むしろ、そのような罪深い自分の心を見つめることからあなたの目を移して、その罪を赦すために恥と呪いの十字架にかかってくださったイエス・キリストを仰ぎ見て、待ち望むようにと導きます。自分で自分をかえることのできないあなたをこよなく愛して、あなたのためにご自分が犠牲になっていのちを与えてくださったイエス様を待ち望むことが悔い改めなのです。

悔い改めについて少しわかりましたね。でも、悔い改めにふさわしい実とは何でしょうか。そのためにもう少し聖書に聞く必要があるでしょう。

ルカはルカによる福音書の後編のような使徒言行録という書物を書きました。その1章5節で、十字架にかかってよみがえってくださったイエス様が使徒たちに、「ヨハネは水で洗礼を授けたが、あなたがたは間もなく聖霊による洗礼を授けられる」と言われています。今朝読まれたところでも、バプテスマのヨハネは、あなたがメシア、救い主ですか、と聞かれて、いえ、わたしはわたしの後から来られて聖霊と火で洗礼をおさづけになる方の備えをしているのであって、わたしはその方の靴のひもを解くような、しもべがその主人にする値打ちさえない者です、とこたえています。ヨハネはイエス様を迎える心を整えました。イエス様は罪を赦すために来てくださいます。

続いてヨハネが言うように、イエス様はあなたに聖霊と火の洗礼を授けます。イエス様は洗礼によってあなたに聖霊を与えてくださいます。聖霊はあなたがイエス様を信じ続けて、信仰の実を豊かに結ぶように導いてくださいます。そして、そうではない人、すなわち、悔い改めてイエス様を信じない人、信仰の実を結ばない人にとっては、イエス様の洗礼は裁きときよめの火となります。その罪と結末があらわにされる裁きとなるのです。

イエス様はあなたのためにいのちを与えてくださいました。そしてあなたはすべての罪を赦され、あたらしい命に生きるようになりました。悔い改めにふさわしい実を結ぶように、という意味は、イエス様にあたえられたそのいのちを、いきいきといきなさい、という意味なのです。聖書には悔い改めにふさわしい実を、聖霊の結ぶ実というような表現で、九つの特徴があるように書かれています。ガラテヤ人への手紙五章二十二節、二十三節です。それは、愛、喜び、

平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制という九つの実です。あなたは愛の人と呼ばれますか。喜びの人ですか。いつも平安な心ですか。人々に寛容ですか。親切ですか。善意をもって誠実に、また柔和な態度でいれるように自制していますか。九つの実を結んでいますか。

もしそうであったら、それはあなたの手柄ではなくて、イエス様を信じて与えられる聖霊があなたのうちに結ばせてくださる、悔い改めにふさわしい実ですね。自分の罪を赦してくださるイエス様を信じたら、自分の中に以前にはなかった新しい心が与えられていることに気づくことがあります。驚きです。うれしいことです。イエス様が確かに来てくださったのですね。

けれども、自分の心には愛がない、喜びなんてない、平安ではなく、寛容や親切、善意や柔和な状態とは程遠く、自分は自分を制することができない、と言う人はがっかりしないでください。「悔い改めにふさわしい実を結びなさい!」と言われて、自分はそんな実は少しも結んでいないのではないかと心配になったら、むしろ、そんな自覚があることを喜んでください。そしてあらためて悔い改めてイエス様に目を向けましょう。

私たちはそもそもそのような者ではありませんでした。そもそも私たちは愛の人ではありませんし、どんなに背伸びをしても愛の人にはなれません。本来は火で裁かれるべき、自己中心な者です。ですから悔い改めてイエス様を見ましょう。イエス様はそんなあなたを愛し、その罪を赦して、あたらしい心を与えてくださるのです。喜びをもって、確信をもって、あなたを赦し、あなたに親切で、善意をもって柔和に、十字架であなたのためにご自分を与えてくださいました。そのイエス様を仰ぎ見て、あなたの救い主としてお受けしましょう。悔い改めの実はあなたが結ぶ実ではありません。あなたが悔い改めてイエス様を信頼するところに、その悔い改めと信仰の実が結ばれます。なぜならそれはイエス様が結ばせてくださる実だからです。ですからヨハネはヨハネのもとに洗礼を受けるために集まった群衆に、「悔い改めにふさわしい実を結びなさい!」と言いました。

自分にはいろいろ苦しい現実がある。乗り越えることができるだろうか。ものごとにはうまく展開していくだろうか。弱気になって恐れと不安に支配されそうになることがあります。あなたは苦難や試練で押しつぶされるかもしれません。あなたにはものごとの進展をどうすることもできません。そんな心配なときは、その自覚があることを喜んでください。そしてあらためて悔い改めてイエス様に目を向けましょう。そんなときこそ、あなたのところに来てくださって、あなたの罪を赦して神様の子どもとしてくださるイエス様を仰ぎ見て信頼しましょう。あなたのために御子イエス様をお与えくださった、何でもおできになる全能の神様が、あなたの天の父としてあなたをきよめ、あなたを強め、永遠のいのちに至らせてくださることを思い起こしましょう。試練と苦難のなかで、ちょうど小舟で湖をわたる途上で嵐にあい、苦しんで絶望していた弟子たちに、イエス様が近づいて、わたしがあなたと共にいる、恐れることはない、と力づけてくださったときのような、大きな平安があなたを包みます。悔い改めて、自分から目を移し、イエス様を仰ぎ見て信頼しましょう。イエス様はあなたと共にいます。そしてあなた

は嵐の中でも祈りの心が深められながら、不思議な神様の御手に支えられる、かけがえのない体験をすることでしょう。それが悔い改めにふさわしい実です。

イエス様を待ち望むアドベント、今朝はバプテスマのヨハネを通して大切な導きを得ました。自分の罪深い、自己中心な心はなんと大きな力で自分をむしばむことでしょうか。自己中心は罪です。自己中心によって私たちは神様に心を開かず、人との関係を気まずいものに、ストレスを感じるものになります。自己中心な心は更に私たちをかたくなにします。自分の内にこもってしまい、自分だけの空間をつくってしまいます。さらに神様に心を開くことをせず、人との関係を損なっています。自己中心な私たちは、固く、冷たく、不信と恐れに満ちたものなのです。しかしバプテスマのヨハネを遣わしてくださった神様は、私たちにも悔い改めの心を与えてくださいます。自己中心な自分から目を移し、向き直って目をイエス様に注ぎ、私のために十字架にかかって死んでくださったイエス様を信頼する信仰を与えてくださいます。

そうです。悔い改めてイエス様を信頼することなしに、悔い改めの実は結ばれません。当時の人々は自分たちが神の民だということで大丈夫だと勘違いしていました。神の民だということはいいことで幸せなことですが、それで安心して、悔い改めと信仰を見失っていました。それでは悔い改めの実は結ばれません。

教会に来ているから、たくさんクリスチャンの友達がいるから、自分の家がクリスチャンだから、など、それらはよいことで、神様から与えられた幸せなのですが、私たちも悔い改めてイエス様を信じること以外のことで安心して、悔い改めと信仰を見失うことがあります。そんなときは悔い改めの実を結んでいません。困った人を見たら、巻き込まれないように、近づかないようにと思います。自分には特権や力がないと不平を言うのに、特権や力を持つと、それを利用して人々を苦しめます。よい実を結ばない木は火に投げ込まれます。

「悔い改めにふさわしい実を結びなさい！」とヨハネは叫んでいます。ヨハネは私たちが自分の罪を赦して新しいいのちを与えてくださる主イエス様を仰ぎ見、待ち望むようにと、語気を強めているのです。いよいよ来週はクリスマスです。この一週間、あなたのところに来てくださるイエス様に心を開き、イエス様の愛と喜びに満たされ、イエス様がいらっしゃるのですから安心して人々に心を開き、寛容な心、親切と善意をもって接しましょう。すすんで誠実を尽くし、柔和な心で人を生かすように、人々の幸せをともにつくる一週になるように自分を制して歩みましょう。罪を赦して新しいいのちを与えてくださるイエス様のお誕生の喜びを、今週出会う皆さんと分かち合っていこうではありませんか。

「わたしは、その方の履物のひもを解く値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。」ルカ 3:16b

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讚美歌 339 番 献金 献金感謝の祈り

1. 君なるイエスよ、けがれし我を 洗いきよめて めぐみを賜(たま)え
わが日わが時 わがもの皆は 今より とわに 君のものなり
2. わが手は君の み業をならい われの歩みは み跡をふみて
いそしみ進み 主の御力に 常に たよりにて 強からしめよ
3. われの舌をば すくいの主(ぬし)の 恵みを うたう 器となして
わがくちびるに よき音ずれを 溢るるばかり 満たしめたまえ
4. 黄金しろがね 知恵も力も 献げまつれば みな 取り用い
我のころを 宝座(みくら)となして み旨のままに 治めたまえや **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 541 番

父、御子、御霊の おおみ神に ときわに たえせず み栄えあれ、み栄えあれ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいぬがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しく とこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏